

水道工事施工管理基準

2 0 2 1

八匠水道企業団

目次

1	目的	2
2	適用	2
3	構成	2
4	施工管理の実施	2
5	管理項目及び方法	2
6	規格値	3
7	工事写真	3
8	出来形管理基準	4
9	品質管理基準	1 5
1 0	写真管理基準	2 2
	撮影箇所一覧表（3－1）	2 3
	出来形管理写真撮影箇所一覧表（3－2）	2 5
	品質管理写真撮影箇所一覧表（3－3）	2 9
1 1	参考資料	3 0
	出来形管理図表及び品質管理図表（参考資料－1）	3 1
	施工管理図表（様式－1）	3 2
	出来形測定結果一覧表（様式－2）	3 3
	出来形管理図表（様式－3）	3 4
	試験（測定）結果一覧表（様式－4）	3 5
	品質管理図表（様式－5）	3 6

写真の撮り方

水道工事施工管理基準

この基準は、水道工事標準仕様書（以下「標準仕様書」という。）Ⅰ共通編 1－1－56「施工管理」に規定する水道工事の施工管理及び規格値の基準を定めたものである。

1. 目 的

この基準は、水道工事の施工について、契約図書に定められた工期、工事目的物の出来形及び品質規格の確保を図ることを目的とする。

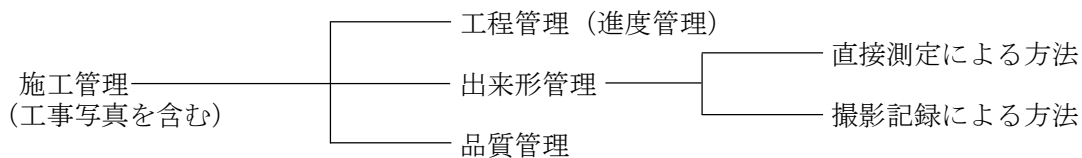
2. 適 用

この管理基準は、八匠水道企業団が発注する水道工事について適用する。

適用にあたっては、「水道工事標準仕様書（2017年暫定版）」、「平成27年度版 土木工事施工管理基準（千葉県）」、「千葉県道路占用工事共通指示書（平成10年4月）」等に準拠する。

ただし、工事規模、施工条件等により、この基準によりがたい場合は、監督職員と協議して他の方法によることができる。

3. 構 成



4. 施工管理の実施

- (1) 受注者は、工事施工前に施工管理計画（出来形及び品質管理計画等）及び施工管理担当者を定めなければならない。
- (2) 施工管理担当者は、当該工事の施工内容を把握し、適切な施工管理を行わなければならない。
- (3) 受注者は、測定（試験）等を工事の施工と並行して、管理の目的が達せられるよう速やかに実施しなければならない。
- (4) 受注者は、測定（試験）等の結果をその都度逐次管理図表等に記録し、監督職員の請求に対し直ちに提示するとともに、検査時に提出しなければならない。

5. 管理項目及び方法

(1) 工程管理

受注者は、工程管理を工事内容に応じた方式（ネットワーク（PERT））又はバーチャール方式などにより作成した実施工程表により行うものとする。ただし、応急処理工事等の当初工事計画が困難な工事内容については省略できるものとする。

また、受注者は、工事履行報告書にて工程の進捗管理を行うこと。

(2) 出来形管理

出来形管理のうち、直接測定による出来形管理とは、工事の出来形を把握するため、工作物の寸法、凹凸、勾配、基準高等を施工の順序に従い直接測定（出来形測定）し、その都度逐次その結果を管理図表（様式－3）又は結果一覧表（様式－2）に記録し、常に的確な管理を行うことをいう。

また、撮影記録による出来形管理とは、出来形測定、品質管理を実施した場合において又は、施工段階（区切り目）及び施工の進行過程を確認するため、必要に応じて撮影記録を行うことをいう。

受注者は、出来形を出来形管理基準に定める測定項目及び測定基準により実測し、設計値と実測値を対比して記録した出来形成果表又は、出来形管理図を作成し管理するものとする。ただし、測定数が5点未満の場合は出来形成果表のみとし、出来形管理図の作成は不要とすることができる。（参考資料－2 参照）

(3) 品質管理

品質管理とは、資材等の品質を把握するため、物理的、化学試験を実施し、その都度、その結果を管理図表又は、結果一覧表（様式－4）に記録し、常によりの確な管理を行うことをいう。

受注者は、品質を品質管理基準に定める試験項目、試験方法及び試験基準により管理し、その管理内容に応じて、工程能力図又は、品質管理図表（ヒストグラム、 $\bar{x}-R$ 、 $\bar{x}-R_s$ 、 $\bar{x}-R_m$ など）を作成するものとする。ただし、測定数が10点未満の場合は、品質管理表のみとし管理図の作成は不要とすることができる。

なお、 $\bar{x}-R$ 管理図（様式－5）を適用する工種については、測点数が5点以上10点未満でも参考として品質管理図表を作成する。

（参考資料-2 参照）

6. 規格値

受注者は、出来形管理基準及び品質管理基準により測定した各実測（試験・検査・計測）値は、すべて規格値を満足しなければならない。

7. 工事写真

受注者は、工事写真を施工管理の手段として、各工事の施工段階及び工事完成後明視できない箇所の施工状況、出来形寸法、品質管理状況、工事中の災害写真等を写真管理基準により撮影し、適切な管理のもと保管し、監督員の請求に対し速やかに提示するとともに、工事完成時に提出しなければならない。

8. 出来形管理基準

工 事	工 種	工 種 細 目	測 定 項 目	規格値	測 定 基 準	摘 要
【 1 】 管路工事	(1) 土工	掘削工	幅 b	+50mm -0	●延長 40m 毎(標準的な位置)に測定する。 ●布設延長 40m 未満の路線にあっては、 路線毎に1箇所測定する。 ●給水管切替工事及び鉛給水管 更新工事の開削工法の土工は3箇所に1箇所 配管状況は、全箇所測定する。	土被りの変化点、占用位置の変化点にお いても測定する。
			深さ d	+100mm -0		
		埋戻工	基準高 ▽ 厚さ t	±50mm -50mm		
	(2) 配管工	配管工	延長 L	+0.10% -0		
			土被り D	+100mm -0		
			占用位置 H * オフセット	±50mm ±50mm		
	(3) 仕切弁設置工	砕石基礎工	径 B 厚さ t	-50mm -30mm	●設置位置毎に測定する。	
		仕切弁筐設置	据付位置 鉄蓋据付	中心 ±0mm	●スピンドルが中心になるよう据付られて いること。 ●鉄蓋と路面の段差がないこと。 (路面とのすり付け勾配1%以内)	
	(4) 消火栓・排水 弁・空気弁設置工	砕石基礎工	径 B 厚さ t	-50mm -30mm	●設置箇所毎に測定する。	
		鉄蓋設置工	鉄蓋と路面と の段差 すり付け勾配	±0mm 概ね1% 以下	●鉄蓋と路面との段差がないこと。 ●路面とのすり付け勾配。	

工 事	工 種	工 種 細 目	測 定 項 目	規格値	測 定 基 準	摘 要
【 1 】 管路工事	(5) 仕切弁室・排水弁室築造工	基礎工	幅 b 厚さ t	-50mm -30mm	●設置箇所毎に測定する。	
		躯体工	内寸法 b 1	±30mm		
			外寸法 b 2	±30mm		
			高さ h 1	±30mm		
			h 2	±30mm		
			壁厚 t	+10mm -5mm		
	(6) 管防護工	基礎工	幅 b 厚さ t	-50mm -30mm	●設置箇所毎に測定する。	
		コンクリート工	長さ } 幅 }	断面 +30mm -0		
			厚さ }	延長 +30mm -0		
	(7) 排水施設	基礎工	幅 b 厚さ t	-50mm -30mm	●設置箇所毎に測定する。	
		鉄蓋設置工	鉄蓋と路面との段差 すり付け勾配	±0mm 概ね 1 % 以下	●鉄蓋と路面との段差がないこと。 ●路面とのすり付け勾配。	

工 事	工 種	工 種 細 目	測 定 項 目	規格値	測 定 基 準	摘 要
【1】 管路工事	(8)推進工	推進工（小口径）	基準高 ▽	±50mm	●基準高、中心線の変位（水平）は、推進管1本ごとに1箇所測定する。	
			中心線の変位 （水平）	直線のみ の推進区間 ±50mm		
				曲線を含む 推進区間 ±100mm		
			延長 L	-L/500mm かつ -200mm		

工 事	工 種	工 種 細 目	測 定 項 目	規格値	測 定 基 準	摘 要
【 2 】 道 路 復 旧 工 事	(1) アスファルト 舗装工 (下層路盤工)	砕石クラッシャーレン	厚さ t (測定の平均値)	-45mm (-15mm)	●厚さは、各路線 40m 毎に1箇所を堀起こして測定。 ●幅は延長 40m 毎に1箇所の割で測定。 ●施工延長 40m 未満については、路線毎に測定。 ●給水管切替工事及び給水管更新工事において、箇所毎の復旧となる場合は、3箇所に1箇所測定する。 ただし、道路管理者の指示があった場合や現場状況に応じて必要な場合測定する。	厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値（x 10）について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は、測定値の平均は適用しない。 *県基準 第 3 編土木工事共通編 一般舗装工 アスファルト舗装工（下層路盤工）より
		再生クラッシャーレン クラッシャーレンスラグ	幅 b	-50mm		
	(2) アスファルト 舗装工 (上層路盤工)	粒度調整砕石	基準高 ▽	±50mm		*県基準 第 3 編土木工事共通編 一般舗装工 アスファルト舗装工（上層路盤工）より
		粒度調整スラグ	厚さ t (測定の平均値)	-30mm (-10mm)		
		セメント及び石灰 安定処理	幅 b	-50mm		
		加熱アスファルト 安定処理	厚さ t (測定の平均値)	-30mm (-10mm)		
		再生アスファルト 安定処理	幅 b	-20mm (-7mm)	●幅は延長 40m 毎に1箇所の割とし、厚さは 100 mに1個の割でコアを採取もしくは堀起こして測定。 ●施工延長 40m 未満については路線毎に測定。 ●給水管切替工事において箇所毎の復旧となる場所は、3箇所に1箇所測定する。 ただし、道路管理者の指示があった場合や現場状況に応じて必要な場合測定する。	
			幅 b	-50mm		

工 事	工 種	工 種 細 目	測 定 項 目	規格値	測 定 基 準	摘 要
【 2 】 道 路 復 旧 工 事	(3) アスファルト 舗装工	アスファルト混合物層 (基層工)	厚さ t (測定の平均値) 幅 b	-12mm (-4mm) -25mm	●幅は、延長 40m 毎に1箇所割として 厚さは、100m に1個の割でコアを採取し て測定。 ●施工延長 40m 未満については、路線毎 に測定。ただし、仮復旧施工時は厚さ、 幅について 40m 毎に1箇所撮影。	* 県基準 第 3 編土木工事共通編 一般舗装工 アスファルト舗装工（基層工）より
	(4) アスファルト 舗装工	アスファルト混合物層 (表層工)	厚さ t (測定の平均値) 幅 b 平坦性	-9mm (-3mm) -25mm 3m ³ プロファイルメータ (σ) 2.4mm 以下 直読式（足付 き） (σ) 1.75mm 以下	●幅は、延長 40m 毎に1箇所割として 厚さは、100m に1個の割でコアを採取し て測定。 ●施工延長 40m 未満については、路線毎 に測定。ただし、仮復旧施工時は厚さ、幅 について 40m 毎に1箇所撮影。 ●維持工事については、平坦性の項目を省 略することができる。 ただし、道路管理者の指示があった場合 や現場状況に応じて必要な場合測定する。	* 県基準 第 3 編土木工事共通編 一般舗装工 アスファルト舗装工（表層工）より
	(5) コンクリート 舗装工	下層路盤工	厚さ t 幅 b	-45mm -50mm	●厚さは、各路線 40m 毎に1箇所を掘起こ して測定。 ●幅は延長 40m 毎に1箇所割に測定。 ●施工延長 40m 未満については、路線 毎に測定。	* 県基準 第 3 編土木工事共通編 一般舗装工 コンクリート舗装工（下層路盤工）より
	(6) コンクリート 舗装工	粒度調整路盤工	基準高 ▽ 厚さ t 幅 b	±50mm -30mm -50mm		* 県基準 第 3 編土木工事共通編 一般舗装工 コンクリート舗装工（粒度調整路盤工）より
	(7) コンクリート 舗装工	コンクリート舗 装版工	厚さ t 幅 b 目地段差	-10mm -25mm ±2mm		* 県基準 第 3 編土木工事共通編 一般舗装工 コンクリート舗装工（コンクリート舗装 版工）より

工 事	工 種	工 種 細 目	測 定 項 目	規格値	測 定 基 準	摘 要
【 2 】 道 路 復 旧 工 事	(8) 歩道路盤工	再生クラッシャーラン 粒度調整砕石 (歩道路盤工)	基準高 ∇ 厚さ $t < 15\text{cm}$ $t \geq 15\text{cm}$ 幅 b	$\pm 50\text{mm}$ -30mm -45mm -100mm	●基準高は、片側延長 20m 毎に1箇所割 で測定。 ●厚さは、片側延長 40m 毎に1箇所掘起こ して測定。 ●幅は、片側延長 40m 毎に1箇所測定。 ●施工延長 40m 未満については、路線毎 に測定。	* 県基準 第 10 編道路編 舗装工 歩道路盤工より
	(9) 歩道路盤工	アスファルト混合物層 透水性アスファルト 混合物層 (歩道舗装工) (表層工)	厚さ t 幅 b	-9mm -25mm	●幅は、片側延長 40m 毎に1箇所割で測 定。 ●厚さは、100m 毎に1箇所コアを採取して 測定。 ●施工延長 40m 未満については路線毎に 測定。	* 県基準 第 10 編道路編 舗装工 歩道路盤工より
	(10) 砂利道復旧工	再生クラッシャーラン 粒度調整砕石	基準高 ∇ 厚さ t (測定の平均値) 幅 b	$\pm 50\text{mm}$ -45mm (-15mm) -50mm		* 下層路盤工に準じる。
	(11) 路面切削工		厚さ t (測定の平均値) 幅 w	-7mm (-2mm) -25mm	●厚さは 20m 毎に現舗装高切削後の基準 高さの差で算出する。 ●測定点は車道中心線、車道端及びその中 心とする。延長 20m 未満の場合は2箇所/ 施工箇所とする。 ●幅は延長 20m 毎に1箇所割とする。 ●断面状況で、間隔、測点数、厚さを変え ることができる。 ●測定方法は自動横断測定方法によること ができる。	* 県基準 第 3 編土木工事共通編 道路関係 路面切削工より * 標準仕様書切削オーバーレイ工より

工 事	工 種	工 種 細 目	測 定 項 目	規格値	測 定 基 準	摘 要
【 2 】 道 路 復 旧 工 事	(12) 切削オーバーレイ工		厚さ t 幅 w 延長 L 平坦性	-7mm -25mm -100mm 3m ^φ プロファイルメータ (σ) 2.4mm 以下 直読式 (足付き) (σ) 1.75mm 以下	●厚さは 20m 毎に現舗装高さ切削後の基準高の差で算出する。測定点は車道中心線車道端及びその中心とする。 ●幅は延長 20m 毎に1箇所/施工箇所とする。 ●延長 20m 未満の場合は、2箇所/施工箇所とする。 ●断面状況で、間隔、測点数、厚さを変えることができる。 ●維持工事においては、平坦性の項目を省略することができるが、道路管理者の指示があった場合や、現場状況に応じて必要な場合測定する。	* 県基準 第 10 編 道路編 道路維持舗装工 切削オーバーレイにより * 標準仕様書切削オーバーレイ工より
	(13) オーバーレイ工		厚さ t 幅 w 延長 L 平坦性	-9mm -25mm -100mm 3m ^φ プロファイルメータ (σ) 2.4mm 以下 直読式 (足付き) (σ) 1.75mm 以下	●厚さは 20m 毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 ●幅は 20m 毎に1箇所/施工箇所とする。 ●延長 20m 未満の場合は、2箇所/施工箇所とする。 ●断面状況で、間隔、測点数、厚さを変えることができる。 ●平坦性は、道路管理者の指示があった場合や、現場状況に応じて必要な場合測定する。	* 県基準 第 3 編土木工事共通編 道路関係 オーバーレイ工より * 標準仕様書切削オーバーレイ工より

工 事	工 種	工 種 細 目	測 定 項 目	規格値	測 定 基 準	摘 要
【 2 】 道 路 復 旧 工 事	(14) 排水性舗装工	下層路盤工	厚さ t (測定の平均値) 幅 b	-45mm (-15mm) -50mm	●厚さは、各路線 40m 毎に1箇所を掘起こして測定。 ●幅は、延長 40m 毎に1箇所の割で測定。 ●施工延長 40m 未満については、路線毎に測定。	* 県基準 第 3 編土木工事共通編 道路関係 排水性舗装工（下層路盤工）より
	(15) 排水性舗装工	上層路盤工 粒度調整路盤工	基準高 ▽ 厚さ t (測定の平均値) 幅 b	±50mm -30mm (-10mm) -50mm	●基準高は、延長 20m mにつき1箇所割とし道路中心線及び端部で測定。 ●厚さは、各車線 40m 毎に1箇所を掘起こして測定。 ●幅は、延長 40m 毎に1箇所の割で測定。 ●施工延長 40m 未満については、路線毎に測定。	* 県基準 第 3 編土木工事共通編 道路関係 排水性舗装工（上層路盤工）より
	(16) 排水性舗装工	上層路盤工 セメント（石灰） 安定処理工	基準高 ▽ 厚さ t (測定の平均値) 幅 b	±50mm -30mm (-10mm) -50mm	●基準高は、延長 20m につき1箇所割とし、道路中心線及び端部で測定。 ●幅は、片側延長 40m 毎に1箇所の割で測定。 ●厚さは、100m 毎に1箇所コアを採取して測定。 ●施工延長 40m 未満については、路線毎に測定。	* 県基準 第3 編土木工事共通編 道路関係 排水性舗装工（上層路盤工）より

工 事	工 種	工 種 細 目	測 定 項 目	規格値	測 定 基 準	摘 要
【 2 】 道 路 復 旧 工 事	(17)排水性舗装工	加熱アスファルト安定処理工	厚さ t (測定の平均値) 幅 b	-20mm (-7mm) -50mm	●幅は 40m 毎に1箇所の割とし、測定。 ●厚さは、100m に1箇所コアを採取して測定。 ●施工延長 40m 未満については、路線毎に測定。	* 県基準 第 3 編土木工事共通編 道路関係 排水性舗装工（加熱アスファルト安定処理工）より
	(18)排水性舗装工	基層工	厚さ t (測定の平均値) 幅 b	-12mm (-4mm) -25mm	●測定基準は、上記（17）に同じ	* 県基準 第 3 編土木工事共通編 道路関係 排水性舗装工（基層工）より
	(19)排水性舗装工	表層工	厚さ t (測定の平均値) 幅 b 平坦性	-9mm (-3mm) -25mm 3m ³ ° プロファイルメータ (σ) 2.4mm 以下 直読式（足付き） (σ) 1.75mm 以下	●幅は、延長 40m 毎に1箇所の割とし、厚さは、100m に1箇所の割でコアを採取して測定。 ●施工延長 40m 未満については、路線毎に測定。 ●維持工事については、平坦性の項目を省略することができる。 ただし、道路管理者の指示があった場合や現場状況に応じて必要な場合測定する。	* 県基準 第 3 編土木工事共通編 道路関係 排水性舗装工（表層工）より

工 事	工 種	工 種 細 目	測 定 項 目	規格値	測 定 基 準	摘 要
【 2 】 道路復旧工事	(20) 付属施設	側溝工	基準高 ▽ 延長 L	±30mm -200mm	●基準高は、施工延長 20m につき1箇所、 施工延長 20m 以下のものは、1施工箇所につ き2箇所。 ●延長は、1箇所/1施工箇所。	* 県基準 第 3 編土木工事共通編 共通関係 側溝工より
		街渠柵・マン ホール工	基準高 ▽ 厚さ t 幅 w 高さ h	±30mm -20mm -30mm -30mm	●1箇所/施工延長 20m 。 ●厚さ、幅、高さは、現場打部分がある場 合。	* 県基準 第 3 編土木工事共通編 共通関係 集水柵工より
		区画線工 表示文字	厚さ t 幅 W	設計値以上	●厚さは、各線種毎に、1箇所テストピー スにより測定。	* 県基準 第 3 編土木工事共通編 共通的工種 区画線工より
		縁石工 (縁石・アスカーフ)	延長 L	-200mm	●1箇所/1施工箇所	* 県基準 第 3 編土木工事共通編 共通的工種 縁石工

9. 品質管理基準

工 事	工 種	工 種 細 目	試 験 項 目	規 格	値	試 験 基 準	摘 要	試験成績表等確認
【1】 管路工事	(1) 土工	埋戻工	簡易貫入試験	12回以上/10cm以下		● 布設延長 100m 以下は 2箇所 ● 100m 以上は、100m 毎に1箇所 ● 50m 以下は、1箇所 ● 路線毎に1箇所 ● 上記以外、道路管理者の指示があった場合や現場状況に応じて必要な場合測定する。		記録写真
	(2) 分岐工	不断水穿孔工	水圧試験	0.75Mpaを5分間以上保持する。		● 設置箇所毎に試験を行い漏水しないこと。		記録写真
		給水管切替工 (サドル分水)		0.75Mpaを5分間以上保持する。				
	(3) T形管接合工	直管曲げ配管	曲げ角度と偏位	T形ダクタイル接合要領書 (日本ダクタイル鋳鉄管協会) による。		T形ダクタイル接合要領書 (日本ダクタイル鋳鉄管協会) による。		チェックシート提出 記録写真
		継手接合部	継手の伸び 受口面～ゴム 軸間隔 受口面～白線 間隔他	T形継手チェックシートによる。				

工事	工種	工種細目	試験項目	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等確認
【1】 管路工事	(4) K形管接合工	直管曲げ配管	曲げ角度と偏位	K形ダクタイル接合要領書 (日本ダクタイル鋳鉄管協会) による。 K形継手チェックシートによる。	K形ダクタイル接合要領書 (日本ダクタイル鋳鉄管協会) による。		チェックシート提出 記録写真
		継手接合部	継手の伸び 受口面～ゴム 軸間隔 受口面～白線 間隔他				
	(5) N S形管接合工	直管曲げ配管	曲げ角度と偏位	NS形ダクタイル接合要領書 (日本ダクタイル鋳鉄管協会) による。	NS形ダクタイル接合要領書 (日本ダクタイル鋳鉄管協会) による。		チェックシート提出 記録写真
		ライナ使用部	継手の伸び	〃	〃		
		継手接合部	継手の伸び 受口面～ゴム 軸間隔 受口面～白線 間隔他	NS形継手チェックシートによる。	〃		
	(6) S II形管接合工	直管曲げ配管	曲げ角度と偏位	S II形ダクタイル接合要領書 (日本ダクタイル鋳鉄管協会) による。	S II形ダクタイル接合要領書 (日本ダクタイル鋳鉄管協会) による。		チェックシート提出 記録写真
		ライナ使用部	継手の伸び				
		継手接合部	ロックリングの間隔 押輪～受口間隔 ゴム輪の出入状態他	S II形継手チェックシートによる。			

工事	工種	工種細目	試験項目	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等確認
【1】 管路工事	(7) S形管接合工	直管曲げ配管 継手接合部	曲げ角度 ピースⅢ問題 ロックリングと挿し 口外面の隙間 胴付間隔 押輪～受口間隔 ゴム輪の出入 状態他	S形ダクタイル接合要領書 （日本ダクタイル鋳鉄管 協会）による。 S形継手チェックシートに による。	S形ダクタイル接合要領書 （日本ダクタイル鋳鉄管協 会）による。		チェックシート提出 記録写真 ・（社）日本水道協 会の品質検査証明 書を受けた工場か ら発行される受験 証明書 ・材料確認 ・記録写真
	(8) G X形管接合工	直管曲げ配管 ライナ使用部 継手接合部	曲げ角度と偏位 継手の伸び 継手の伸び 受口面～ゴム 軸間隔 受口面～白線 間隔他	GX形ダクタイル接合要領書 （日本ダクタイル鋳鉄管 協会）による。 〃 G X形継手チェックシート による。	GX形ダクタイル接合要領書 （日本ダクタイル鋳鉄管協 会）による。 〃 〃		チェックシート提出 記録写真
	(9) その他の管接合工	直管曲げ配管 継手接合部		ダクタイル接合要領書 （日本ダクタイル鋳鉄管 協会）による。	ダクタイル接合要領書 （日本ダクタイル鋳鉄管協 会）による。		溶接鋼管について は、別途基準によ る。

工事	工種	工種細目	試験項目	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等確認
管	(10) 管及び弁類等水道材料	配水管材料及び水管材料	(社) 日本水道協会規格	(社) 日本水道協会規格	・ JWWA ・ 仕様書		・ (社) 日本水道協会の品質検査証明書を受けた工場から発行される受験証明書 ・ 材料確認 ・ 記録写真 ・ 納入仕様書等 ・ 材料確認 ・ 記録写真
	(11) 管耐圧試験	配管全て	水圧試験	1.00Mpaの水圧をかけて24時間維持する。	著しく減圧がない。 ＊24時間後の水圧が85%以内であること。		水圧計設置時の写真及び水圧計記録用紙（24時間）

工事	工種	工種細目	試験項目	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等確認
【2】 道路復旧工事	(1)路盤工	下層路盤工	現場密度の測定 (施工)	最大乾燥度の93% 以上 X10 95%以上 X6 96%以上 X3 97%以上	●布設延長 100m 以下は 2箇所 ●100m 以上は 100m 毎 に1箇所 ●50m 以下は、1箇所 ●路線毎に1箇所 ●給水切替工事は各路線 毎に1箇所測定する。 ただし、道路管理者の 指示があった場合や、現 場状況に応じて必要な場 合測定する。	締固め度は、 10個の測定値 の平均値を満 足しなければ ならない。 10個の測定値 が、得難い場 合は3個の平均 値X3が規格値 を満足しなけ ればならない が、X3が規格 値をずれた場 合は、さらに3 個のデータを 加えた平均値 X6が規格値を 満足していれ ばよい。 *県基準 4下層路盤	
		上層路盤工	下層路盤工に 同じ 現場密度の測定 (施工)	同上	同上	同上 *県基準 4上層路盤	
		アスファルト安定処理工	下層路盤工に 同じ 現場密度の測定 (施工)	同上	同上	同上 *県基準 6アスファルト安定処 理路盤	
		セメント安定処理工	現場密度の測定 (施工)	同上	同上	同上 *県基準 7セメント安定処理 路盤	

工事	工種	工種細目	試験項目	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等確認
【2】 道路復旧工事	(2)アスファルト舗装工	アスファルト舗装工	現場密度の測定	基準密度の94%以上 X10 96%以上 X6 96%以上 X3 96.5%以上	●布設延長 100m 以上は2箇所 ●100m 以上は 100m 毎に1箇所 ●50m以下は1箇所 ●路線毎に1箇所 ●給水管切替工事は各路線毎に1箇所測定する。 ただし、道路管理者の指示があった場合や、現場状況に応じて必要な場合測定する。		
			温度測定（初期締固め前）	110℃以上	随時		
			外観検査（混合物）	目視	随時		

1 0 . 写真管理基準

(3-1) 撮影箇所一覧表

区 分	工 種	写 真 管 理 項 目		適 用
		撮 影 項 目	撮 影 頻 度 (時 期)	
工事着手前・完成	工事着手前	全景又は代表部分写真	着手前1回 【着手前】	工事始点～終点
	完成	全景又は代表部分写真	施工完了後1回 【完成後】	工事始点～終点
施工状況写真	工事施工中	全景又は代表部分の工事進捗状況	月1回 または撮影予定の測点 【月末】	
			工種、種別毎に共通仕様書及び諸基準に従い施工していることが確認できるように適宜撮影。 【施工中】	
			高度技術・創意工夫・社会性等に関する実施状況が確認できるように適宜撮影。 【施工中】	高度技術・創意工夫・社会性等に関する実施状況の提出資料に添付
	仮設（指定仮設）	使用材料、仮設状況、形状寸法	1施工箇所につき1回【施工前後】	
	図面との不一致	図面と現地との不一致の写真	必要に応じて【発生時】	
安全管理	安全管理	各種標識類の設置状況	各種類毎に1回 【設置後】	
		各種保安施設の設置状況	各種類毎に1回 【設置後】	
		監視員交通整理状況	各1回 【作業中】	

区 分	工 種	写 真 管 理 項 目		適 用
		撮 影 項 目	撮 影 頻 度 (時 期)	
安全管理	安全管理	安全訓練等の実施状況	実施毎に1回 【実施中】	
使用材料	使用材料	形状寸法	各品目毎に1回 【実施中】	
		検査実施状況	各品目毎に1回 【検査時】	
使用機械	使用機械	機械の仕様・能力	各種毎に1回 【使用前】	
出来形管理写真	(3-2) 出来形管理写真撮影箇所一覧表に記載			
品質管理写真	(3-3) 品質管理写真撮影箇所一覧表に記載			
災害	被災状況	被災状況及び被災規模等	その都度 【被災前】 【被災直後】 【被災後】	
事故	事故報告	事故の状況	その都度 【発生前】 【発生直後】 【発生後】	
その他	補償関係	被害又は損害状況等	その都度 【発生前】 【発生直後】 【発生後】	
	環境対策 イメージアップ等	各施設設置状況	各種毎1回 【設置後】	

(3-2) 出来形管理写真撮影箇所一覧表

区 分	工 種	写 真 管 理 項 目		適 用
		撮 影 項 目	撮 影 頻 度 (時 期)	
1 管 路 工 事	掘削工	幅、深さ（土工定規による）	40m 毎に1箇所	工事始点～終点
	埋戻工・締固め工	基準高、厚さ	延長 40m 未満のとき、路線毎に1箇所	工事始点～終点 複数埋戻材時、各層毎に撮影
	管布設工	土被り 占用位置		工事始点～終点
	仕切弁設置工 砕石基礎工 仕切弁筐設置	幅、厚さ 基準高、すりつけ状況	設置箇所毎	
	消火栓・排水栓・ 空気弁設置工 砕石基礎工 鉄蓋据付工	幅、厚さ 基準高・すりつけ状況	設置箇所毎	
	仕切弁室・排水弁室 築造工 砕石基礎工 躯体工	幅、厚さ・すりつけ状況 内寸法・外寸法・高さ・壁厚	設置箇所毎	
	給水管切替工	開削による場合 幅、深さ、（土工定規による）	3箇所に1箇所	
	土工事 配管工			
	推進工	各種設備設置撤去状況（推進設備、 推進機、抗口、泥水処理設備等） 推進状況（掘削、送排泥、裏込注入等） 中心線の変位（水平）	1施工箇所に1回（施工中、推進後） 代表箇所	

区 分	工 種	写 真 管 理 項 目		適 用
		撮 影 項 目	撮 影 頻 度 (時 期)	
2 道 路 復 旧 工	下層路盤工 砕石クラッシャーラン 再生クラッシャーラン クラッシャーランスラグ	厚さ、幅	各路線 40m 毎に1箇所 40m 未満は路線毎に1箇所 給水切替工事は3箇所に1箇所とし、道路復旧工については以下同様とする。	工事始点～終点
	上層路盤工 粒度調整砕石 粒度調整スラグ セメント及び石灰安定処理 加熱アスファルト安定処理 再生アスファルト安定処理	厚さ、幅	各路線 40m 毎に1箇所 40m 未満は路線毎に1箇所	工事始点～終点
	アスファルト基層工	幅	各路線 40m 毎に1箇所 40m 未満は路線毎に1箇所	工事始点～終点
	アスファルト表層工	幅 平坦性	各路線 40m 毎に1箇所 40m 未満は路線毎に1箇所	工事始点～終点
	コンクリート舗装工 下層路盤工	厚さ、幅	各路線 40m 毎に1箇所 40m 未満は路線毎に1箇所	
	コンクリート舗装工 粒度調整路盤工	厚さ、幅	各路線 40m 毎に1箇所 40m 未満は路線毎に1箇所	
	歩道路盤工	厚さ、幅	各路線 40m 毎に1箇所 40m 未満は路線毎に1箇所	
	歩道路盤工 アスファルト混合物 透水性アスファルト混合物	厚さ、幅	各路線 40m 毎に1箇所 40m 未満は路線毎に1箇所	

区 分	工 種	写 真 管 理 項 目		適 用
		撮 影 項 目	撮 影 頻 度 (時 期)	
2 道 路 復 旧 工	砂利道復旧工 下層路盤に準ずる。	厚さ、幅	各路線 40m 毎に1箇所	
	路面切断工	厚さ、幅		
	切削オーバーレイ工	厚さ、幅 延長、平坦性	延長 40m 毎に1箇所 40m 未満は路線毎に1箇所	
	オーバーレイ工	厚さ、幅 延長、平坦性	延長 40m 毎に1箇所 40m 未満は路線毎に1箇所	
	排水性舗装工 下層路盤工	厚さ、幅	延長 40m 毎に1箇所 40m 未満は路線毎に1箇所	
	排水性舗装工 上層路盤工	厚さ、幅	延長 40m 毎に1箇所 40m 未満は路線毎に1箇所	
	排水性舗装工 セメント安定処理工 (石灰) 安定処理工	厚さ、幅	延長 40m 毎に1箇所 40m 未満は路線毎に1箇所	
	排水性舗装工 加熱アスファルト安定 処理工	厚さ、幅	延長 40m 毎に1箇所 40m 未満は路線毎に1箇所	
	排水性舗装工 基層工	厚さ、幅	延長 40m 毎に1箇所 40m 未満は路線毎に1箇所	
	排水性舗装工 表層工	厚さ、幅 平坦性	延長 40m 毎に1箇所 40m 未満は路線毎に1箇所	

区 分	工 種	写 真 管 理 項 目		適 用
		撮 影 項 目	撮 影 頻 度 (時 期)	
2 道 路 復 旧 工	付属施設 側溝工	基準高 延長	基準高は延長 20m 毎に1箇所 各路線 40m 毎に1箇所 40m 未満、路線毎に1箇所	
	街渠柵・ マンホール工	基準高 厚さ、幅（現場打ちの場合） 高さ（現場打ちの場合）	設置箇所毎	
	区画線工 表示文字	厚さ、幅	各路線 40m 毎に1箇所 表示文字については全箇所 ただし、完成写真で判読できるも のは省略できる。	
	縁石工 （縁石・アスカーブ）	延長	各路線 40m 毎に1箇所	

(3-3) 品質管理写真撮影箇所一覧表

区 分	工 種	写 真 管 理 項 目		適 用
		撮 影 項 目	撮 影 頻 度 (時 期)	
1 管路工事	(1) 土工	簡易貫入試験 現場密度試験	2 品質管理基準による。 実施箇所毎	
	(2) 配管工	不断水穿孔工 給水管切替工	設置箇所毎	水圧試験状況、圧力ゲージ判読可能 監督員立会
	(3) 耐震継手管			
	(4) 耐震継手管 NS形 GX形 SⅡ形 S形	管種毎の接合要領による配管状況 管切断加工（甲切管、乙切管）	実施箇所毎	NS形・GX形管で内面粉体 塗装のものに使用するポリエチレンスリーブは粉体表示のもの。
	(5) 既設管連絡工	既設管連絡工	実施箇所毎	
	(6) 管撤去工	撤去材	実施箇所毎	掘上管延長、検尺
	(7) 水道用材料	材料確認		
2 道路復旧工	(1) 舗装復旧 ASコン、コンクリート その他	弁篋、鉄蓋等付属施設とのすりつけ状態	設置箇所毎	

1 1 . 参考資料

出来形管理図表及び品質管理図表

出来形管理図表及び品質管理図表の取り扱いについて

１．出来形管理

管理図表等のまとめ方

- ①管理工種一覧表（様式－１）
- ②測定結果一覧表（様式－２）
管理図により難しい場合、もしくは測定点数がおおよそ２０点以下の場合。
- ③出来形管理図（様式－３）
測定点数がおおよそ２０点以上の場合
- ④完成後、明視できない部分で重要な箇所は、記録写真によるほか、直接測定による管理図表を作成し、つねに状況を把握する。

２．品質管理

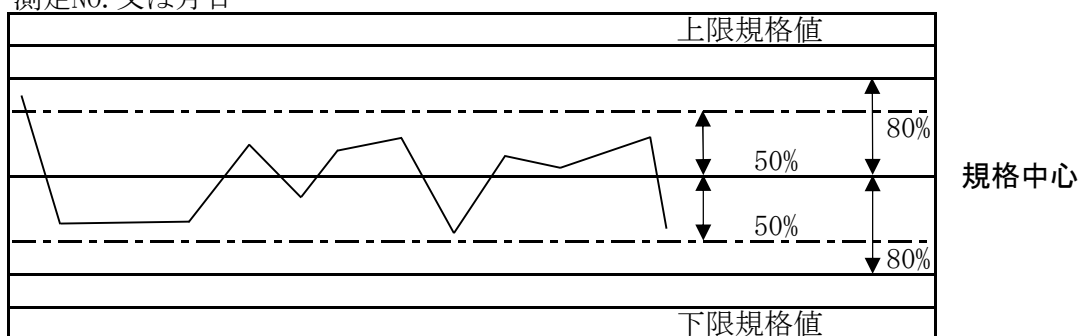
管理図表等のまとめ方

- ①管理工種一覧表（様式－１）
- ②試験（測定）結果一覧表（様式－４）
管理図により難しい場合、もしくは試験（測定）点数がおおよそ１０点未満の場合。
ただし、５点以上１０点未満では、 $\bar{X}$ -管理図（様式－５）を適用する工種については参考として作成する。
- ③品質管理図（様式－５）
試験（測定）点数がおおよそ１０点以上の場合。

３．管理技法（工程能力図）

工程能力図は得られたデータで規格値を満足しているかどうかのチェックに用いられている連続的な表示方法である。これにより規格の現況、能力等をみる。従って統計的な考え方が使われておらず、工程に異常があるかどうかの判断はできない。しかし規格値に対するデータの変動の様子が連続的につかまえることができる。

測定NO. 又は月日



工程能力図の一覧

工程能力図の作り方は調べようとする対象の集団を区間割して（工区等）合理的な群にして各群の中で時間順序に従ってデータを記入して行くものである。工程能力図は、横軸にサンプル番号を、縦軸に特性値を目盛り、上下規格値を示す線を引く。各データはそのまま打点し各点を実線で結べばよい。

(様式－1)

令和 年 月 日

工事名

工事箇所

工 期

施 工 管 理 図 表

管理工種一覧表

出来形管理				品質管理	
工種	特性	工種	特性	工種	品質特性

受注者名

(様式－２)

出来形測定結果一覧表

工種

工種細目

測定者

印

測定項目									
規格値									
測点又は区別	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差
NO. 1									
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									

*管理図により難しい場合、もしくは測点数がおおよそ20点以下の場合

(様式－３)

出 来 形 管 理 図 表

工種

工種細目

測定者

印

測点	No. 1 No. 2 No. 3 No. 4													
設計値との差 +0														

測定項目				測定項目				測定項目			
規格値				規格値				規格値			
測点又は区別	設計値	実測値	差	測点又は区別	設計値	実測値	差	測点又は区別	設計値	実測値	差
平均値				No 1				No 7			
最大値				2				8			
最小値				3				9			
最多値				4				1 0			
データ数				5				1 1			
標準偏差				6				1 2			

(様式—4)

工種

試験（測定）種目

工 試験（測定）結果一覧表

試験（測定）者名

印

測定月日	測定番号	試験（測定）値	設計値	規格値	自主管理値・適要

記事 手直しの処置等を記入する。

(様式—5)

工種

試験（測定）種目

I

品質管理図表

測定者名

[illegible]

1. 基準線を適宜定める。
2. 設計値との差の単位を定め目盛に数値を入れる。
3. 図表には、許容範囲（規格値）の線を朱書で記入する。
4. 起点から終点に向かって順序よく記入する。
5. 記事欄には手直しの処置等を記入する。
6. 規格値 50% 及び 80% 値の線を表示する。

写真の撮り方(参考)

工 事 名	
工 事 箇 所	
着工前 No. ○	
施 工 者	

【着工前】 ◎現場状況写真

舗装道は測点をペンキ等で表示し、路面状況が判断できるように撮影する。

同一場所から同一方向での撮影とし、対比できるものとする。

撮影箇所:全測点

工 事 名	
工 事 箇 所	
保安施設状況	
施 工 者	

◎保安施設状況

各種標示板、警戒及び規制標識予告板等の設置状況写真。

施工中は、交通誘導員の配置状況を適宜撮影する。

工 事 名	
工 事 箇 所	
材料検査 GX形直管 φ 300mm × 6.00m …… 50本 ソフトシル仕切弁 φ 300mm ……1基 単口消火栓 φ 75mm ……1基 立会者:八咫水道企業団 ○○ 氏	
施 工 者	

◎材料検査

管種・口径・寸法、仕切弁、消火栓等を全体もしくは個別で撮影する。

監督員が写るよう撮影すること。

※一部資材が遅れて納入される場合はその都度、監督職員立会いの下撮影する。

工 事 名	
工 事 箇 所	
施工前状況確認 No, O+30m付近 〇〇 〇〇宅 塀 亀裂	
施 工 者	

◎施工前状況確認

施工前に気になる壁、塀、植木、花等を撮影しておく。

工 事 名	
工 事 箇 所	
掘削工 舗装版切断状況 切断水回収状況 No, O	
施 工 者	

【掘削工】

◎舗装版切断状況 切断水回収状況

カッターを入れている様子及び切断排水を回収している様子
(仮設分、本設分どちらも必要)

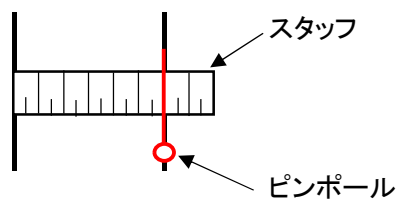
撮影箇所:全測点

工 事 名	
工 事 箇 所	
掘削工 舗装版切断状況 W = 900(設計値) W = 905(実測値) No, O	
施 工 者	

◎舗装版切断状況

切断完了後、実測値の確認
(仮設分、本設分どちらも必要)

撮影箇所:全測点



工 事 名	
工 事 箇 所	
掘削工 舗装版取り壊し状況 No, ○	
施 工 者	

◎舗装版取り壊し状況
※ブレーカー使用時のみ

ブレーカーの使用状況

撮影箇所:使用場所

工 事 名	
工 事 箇 所	
掘削工 舗装版積込状況 No, ○	
施 工 者	

◎舗装版積込状況

ダンプトラックに積載している状況

撮影箇所:全測点

工 事 名	
工 事 箇 所	
掘削工 機械掘削・積込状況 No, ○	
施 工 者	

◎機械掘削・積込状況

機械による掘削状況(使用機械含む)

ダンプトラックに積載している状況

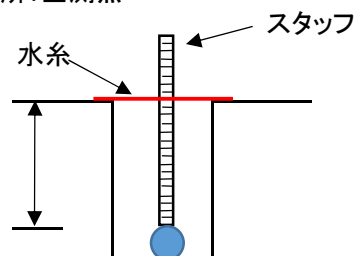
撮影箇所:全測点

工 事 名	
工 事 箇 所	
掘削工 既設管土被り H=1.20m No, ○	
施 工 者	

◎既設管土被り

機械掘削にて既設管の埋設深さがわかったところで土被りを撮影する。

撮影箇所:全測点

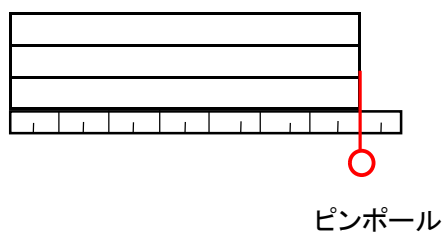


工 事 名	
工 事 箇 所	
仮設工 簡易鋼矢板 L=2.00m(2.50m)	
施 工 者	

【仮設工】

◎簡易鋼矢板

リボンテープをあて、長さを測る。



工 事 名	
工 事 箇 所	
仮設工 簡易鋼矢板たて込み工 No, ○	
施 工 者	

◎簡易鋼矢板たて込み工

掘削深さが1.50m以上の場合、矢板を設置し、設置済みの状態で撮影する。

撮影箇所:使用場所

工 事 名	
工 事 箇 所	
仮設工 簡易鋼矢板 支保工設置 水圧サポート No, ○	
施 工 者	

◎簡易鋼矢板たて込み工

切梁・腹起しの設置状況を撮影。

撮影箇所: 使用場所

工 事 名	
工 事 箇 所	
既設管撤去工 既設管切断状況 No, ○	
施 工 者	

【既設管撤去工】 ◎既設管切断状況

既設管を切断している状況を撮影。

撮影箇所: 全測点

工 事 名	
工 事 箇 所	
既設管撤去工 既設管吊り上げ積込工 No, ○	
施 工 者	

◎既設管吊り上げ積込工

既設管を吊り上げて、ダンプトラックに積込している状況。

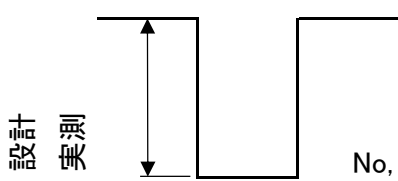
撮影箇所: 全測点

工 事 名	
工 事 箇 所	
AS: 掘削工 人力床均し状況 No, ○	
施 工 者	

【掘削工】
◎人力床均し状況

設計時の床深さに合わせるため、掘削引き均しを行う。

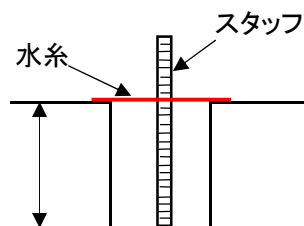
撮影箇所: 全測点

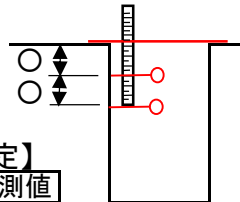
工 事 名	
工 事 箇 所	
掘削工 掘削完了(床均し完了)  No, ○	
施 工 者	

◎掘削完了(床均し完了)

路面より掘削深さを測定する。

撮影箇所: 全測点



工 事 名													
工 事 箇 所													
掘削工  【既存路盤厚測定】 <table border="1" data-bbox="223 1680 542 1814"> <tr> <th></th> <th>設計値</th> <th>実測値</th> </tr> <tr> <td>舗装厚</td> <td>○○</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>路盤厚</td> <td>○○</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>総 厚</td> <td>○○</td> <td>○○</td> </tr> </table> No, ○			設計値	実測値	舗装厚	○○	○○	路盤厚	○○	○○	総 厚	○○	○○
	設計値	実測値											
舗装厚	○○	○○											
路盤厚	○○	○○											
総 厚	○○	○○											
施 工 者													

◎既設路盤厚測定

既存の舗装厚・路盤厚を撮影。

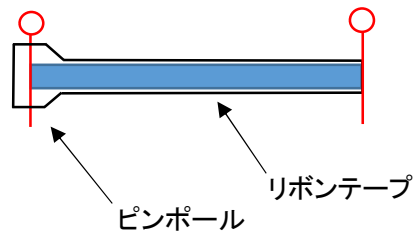
撮影箇所: 全測点

工 事 名	
工 事 箇 所	
管布設工 GX形 φ 300mm GX-GX管 甲切管 L=1.20m	
施 工 者	

【管布設工】
◎切管長確認

切管制作時

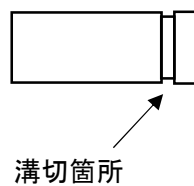
リボンテープとピンポールをあてて撮影。



工 事 名	
工 事 箇 所	
管布設工 GX形 φ 300mm GX-GX管 甲切管 L=1.20m	
施 工 者	

◎挿し口加工状況

切管の溝切加工・切断状況
挿し口リング設置状況の写真

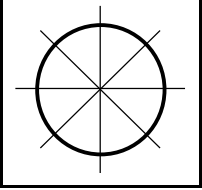


工 事 名	
工 事 箇 所	
管布設工 布設状況 No, ○	
施 工 者	

◎布設状況

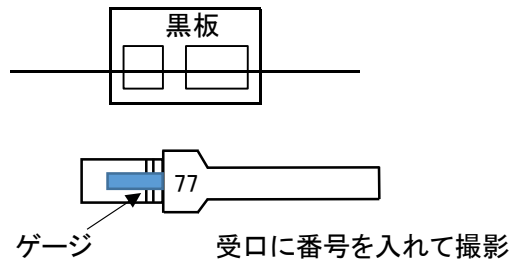
管を吊り上げて掘削穴に入れている状況。

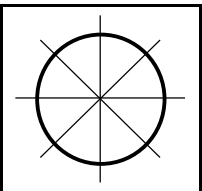
撮影箇所:全測点

工 事 名									
工 事 箇 所									
管布設工 ゲージ入り込み量  スケール確認状況 受口端面～白線 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> </table> 接合No. ○○									
施 工 者									

◎接合確認

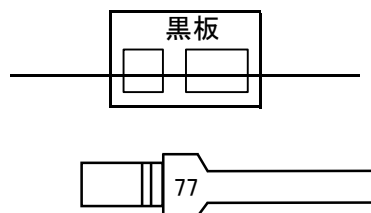
ゲージによるスケール確認状況
撮影箇所:全測点

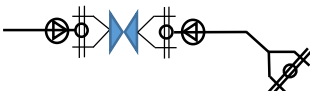


工 事 名									
工 事 箇 所									
管布設工 ゲージ入り込み量  スケール確認完了 受口端面～白線 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr><td>○○mm</td><td>○○mm</td></tr> <tr><td>○○mm</td><td>○○mm</td></tr> <tr><td>○○mm</td><td>○○mm</td></tr> <tr><td>○○mm</td><td>○○mm</td></tr> </table> 接合No. ○○		○○mm	○○mm	○○mm	○○mm	○○mm	○○mm	○○mm	○○mm
○○mm	○○mm								
○○mm	○○mm								
○○mm	○○mm								
○○mm	○○mm								
施 工 者									

◎接合確認

ゲージによるスケール測定結果
撮影箇所:全接合箇所

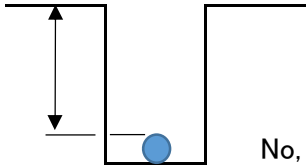


工 事 名	
工 事 箇 所	
管布設工 異形管布設状況 	
施 工 者	

◎異形管布設状況

異形管・異種管(仕切弁、消火栓等)は黒板に配管詳細図を描いて全体が写るように撮影する。

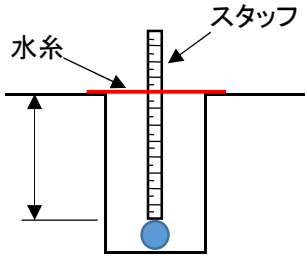
伏越し・上越し箇所はより正確に記載する。

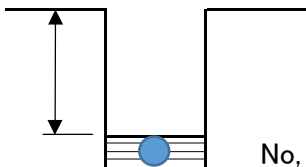
工 事 名	
工 事 箇 所	
管布設工	
布設深測定	
計 画 図 面	
施 工 者	No, ○

◎掘削完了（床均し完了）

路面より管天までの高さ確保状況。

撮影箇所：全測点



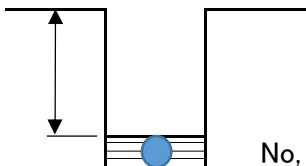
工 事 名	
工 事 箇 所	
埋戻工	
人力転圧状況	
計 画 図 面	
施 工 者	No, ○

【埋戻工】

◎人力転圧状況（施工中）

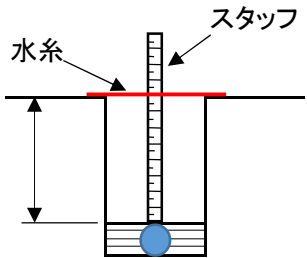
人力転圧は管天までとする。

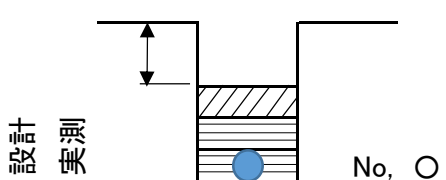
撮影箇所：全測点

工 事 名	
工 事 箇 所	
埋戻工	
人力転圧完了	
計 画 図 面	
施 工 者	No, ○

◎人力転圧完了

撮影箇所：全測点



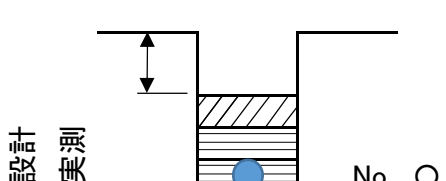
工 事 名	
工 事 箇 所	
路盤工 下層路盤 RC-40 敷き均し及び転圧状況 	
施 工 者	

【路盤工】

◎下層路盤転圧状況(施工中)

機械転圧は150mmごとに転圧とする。

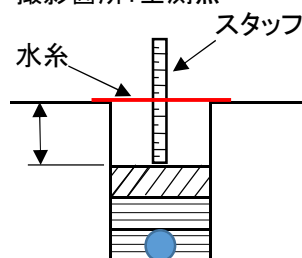
撮影箇所:全測点

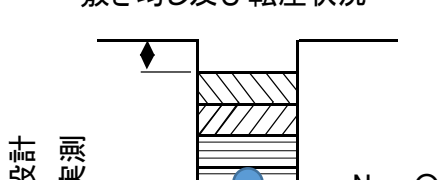
工 事 名	
工 事 箇 所	
路盤工 下層路盤 RC-40 敷き均し及び転圧完了 	
施 工 者	

◎下層路盤転圧完了

浮石がなく、十分な転圧が確認できる状態で撮影すること。

撮影箇所:全測点

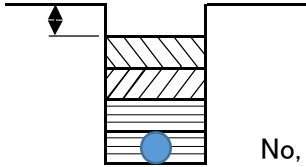


工 事 名	
工 事 箇 所	
路盤工 上層路盤 RM-40 or MS-25 敷き均し及び転圧状況 	
施 工 者	

◎上層路盤転圧状況(施工中)

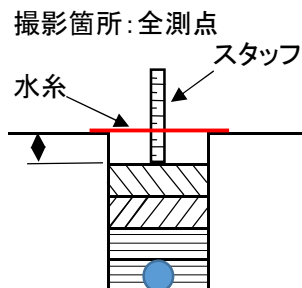
機械転圧は100～150mmごとに転圧とする。
仮復旧時の下がりを考えて撮影。

撮影箇所:全測点

工 事 名	
工 事 箇 所	
路盤工 上層路盤 RM-40 or MS-25 敷き均し及び転圧完了  No, ○	
施 工 者	

◎上層路盤転圧完了

路面からの下がり測定。



工 事 名	
工 事 箇 所	
舗装工 仮復旧 乳剤散布状況 No, ○	
施 工 者	

【舗装工】 ◎仮復旧 乳剤散布状況

掘削箇所全体にムラのないようしっかりと塗布すること。

撮影箇所: 全測点

工 事 名	
工 事 箇 所	
舗装工 仮復旧 乳剤散布完了 No, ○	
施 工 者	

◎仮復旧 乳剤散布完了

掘削箇所全体にムラのないことを確認し撮影すること。

撮影箇所: 全測点

工 事 名	
工 事 箇 所	
舗装工 仮復旧 表層工 舗設状況 t=50mm No, ○	
施 工 者	

◎仮復旧
舗設状況(敷均し及び機械転圧状況)

撮影箇所:全測点

工 事 名	
工 事 箇 所	
舗装工 仮復旧 完了 No, ○	
施 工 者	

◎仮復旧

完了

撮影箇所:全測点

工 事 名	
工 事 箇 所	
舗装工 本復旧 舗装版切断 No, ○	
施 工 者	

◎本復旧
舗装版切断

撮影箇所:全測点

工 事 名	
工 事 箇 所	
舗装工 本復旧 舗装版積込状況 No, ○	
施 工 者	

◎本復旧
舗装版積込状況

ダンプトラックに積載している状況

撮影箇所:全測点

工 事 名	
工 事 箇 所	
舗装工 本復旧 不陸整生工 RM-40 or MS-25 補足材 t=3cm No, ○	
施 工 者	

◎本復旧
不陸整生工

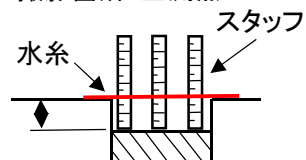
敷均し及び機械転圧状況。

撮影箇所:全測点

工 事 名	
工 事 箇 所	
舗装工 本復旧 不陸整生工 敷き均し及び転圧完了 水糸 No, ○	
施 工 者	

◎本復旧
不陸整生工(敷均し及び転圧完了)
不陸整正後、高さ確認。

撮影箇所:全測点



工 事 名	
工 事 箇 所	
舗装工 本復旧(1層目) 乳剤散布状況 プライムコート No, ○	
施 工 者	

◎本復旧
乳剤散布状況

掘削箇所全体にムラのないようしっかりと塗布すること。

撮影箇所:全測点

工 事 名	
工 事 箇 所	
舗装工 本復旧(1層目) 乳剤散布完了 プライムコート No, ○	
施 工 者	

◎本復旧
乳剤散布完了

掘削箇所全体にムラのないことを確認し撮影すること。

撮影箇所:全測点

工 事 名	
工 事 箇 所	
舗装工 本復旧(1層目) 現場着温度測定 転圧前温度 No, ○	
施 工 者	

◎本復旧
合材現場着温度

ダンプトラック上の温度を撮影。
↓
敷均し後、転圧前温度を撮影。

撮影箇所:全測点

工 事 名	
工 事 箇 所	
舗装工 本復旧(1層目) 基層工  No, ○	
施 工 者	

◎本復旧
基層工施工状況

敷均し及び機械転圧状況を撮影。

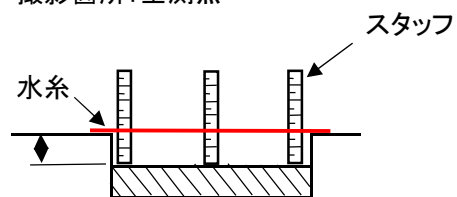
撮影箇所:全測点

工 事 名	
工 事 箇 所	
舗装工 本復旧(1層目) 基層工完了  No, ○	
施 工 者	

◎本復旧
基層工完了

スタッフと水系を使用し測定する。

撮影箇所:全測点



工 事 名	
工 事 箇 所	
舗装工 本復旧(2層目) 乳剤散布状況 タックコート No, ○	
施 工 者	

◎本復旧
乳剤散布状況

掘削箇所全体にムラのないようしっかりと塗布すること。

撮影箇所:全測点

工 事 名	
工 事 箇 所	
舗装工 本復旧(2層目) 乳剤散布完了 タックコート No, O	
施 工 者	

◎本復旧
乳剤散布完了

掘削箇所全体にムラのないことを確認し
撮影すること。

撮影箇所:全測点

工 事 名	
工 事 箇 所	
舗装工 本復旧(2層目) 現場着温度測定 転圧前温度 No, O	
施 工 者	

◎本復旧
合材現場着温度

ダンプトラック上の温度を撮影。
↓
敷均し後、転圧前温度を撮影。

撮影箇所:全測点

工 事 名	
工 事 箇 所	
舗装工 本復旧(2層目) 表層工  No, O	
施 工 者	

◎本復旧
表層工施工状況

敷均し及び機械転圧状況を撮影。

撮影箇所:全測点

工 事 名	
工 事 箇 所	
舗装工	
本復旧	
道路開放温度測定	
No, ○	
施 工 者	

◎本復旧
道路開放温度測定

撮影箇所:全測点

工 事 名	
工 事 箇 所	
舗装工	
本復旧	
完了	
No, ○	
施 工 者	

◎本復旧
完了

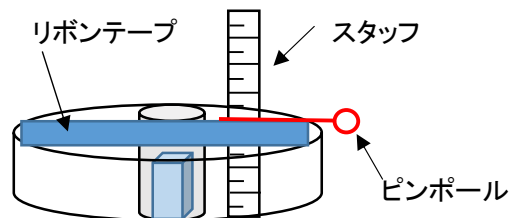
撮影箇所:全測点

工 事 名		
工 事 箇 所		
仕切弁筐設置		
砕石基礎工		
	設計	実測
幅 L=		
高さ t=		
施 工 者		

【仕切弁筐設置】

◎砕石基礎工

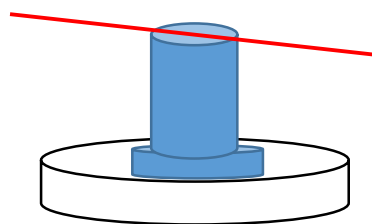
機械転圧後、撮影。



工 事 名		
工 事 箇 所		
仕切弁筐設置		
筐設置状況		
施 工 者		

◎筐設置状況

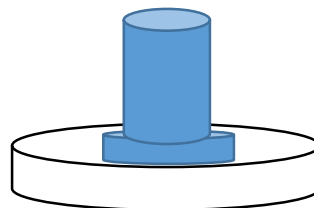
筐を設置して、GLと高さが同じことを確認。



工 事 名		
工 事 箇 所		
仕切弁筐設置		
筐設置完了		
施 工 者		

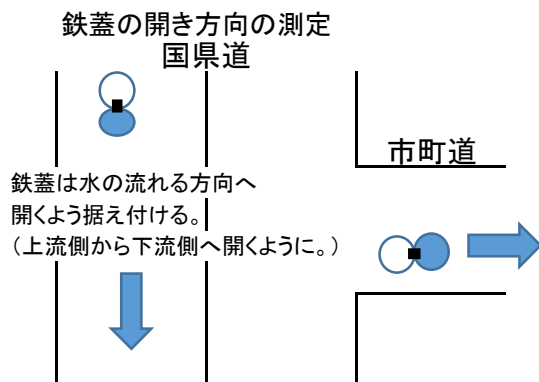
◎筐設置完了

据付完了の状態を撮影。



工 事 名	
工 事 箇 所	
仕切弁筐設置 筐開き方向確認	
施 工 者	

◎筐開き方向確認

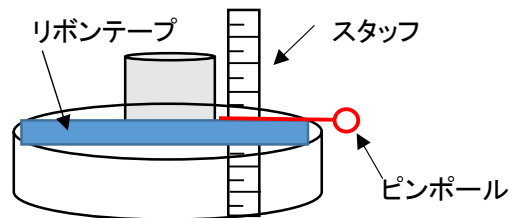


工 事 名		
工 事 箇 所		
消火栓室築造工 砕石基礎工		
	設計	実測
幅 L=		
高さ t=		
施 工 者		

【消火栓室築造工】

◎砕石基礎工

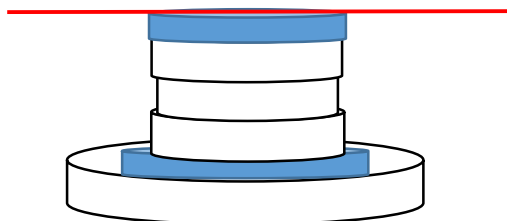
機械転圧後、撮影。



工 事 名		
工 事 箇 所		
消火栓室築造工 土留設置工 φ600mm		
鉄蓋・鉄枠	t=	○○○
上部	t=	△△△
中部	t=	□□□
下部	t=	×××
底板	t=	☆☆
計	t=	◎◎◎
施 工 者		

◎筐設置状況

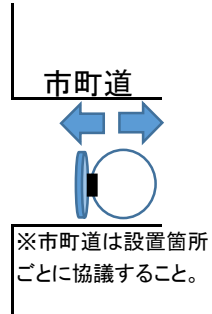
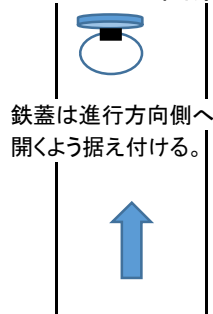
土留を設置して、GLと高さが同じことを確認。



工 事 名	
工 事 箇 所	
消火栓室築造工 筐開き方向確認	
施 工 者	

◎筐開き方向確認

鉄蓋の開き方向の測定
国県道



工 事 名	
工 事 箇 所	
仮設配管布設工 配管状況 No, ○	
施 工 者	

【仮設配管布設工】

◎配管状況

掘削工については、布設替えに準拠する。

1. 仮設配管土被り
 2. 管口清掃状況
 3. 滑剤塗布状況
 4. 接合状況
 5. ストッパー取付け状況
- の順に撮影する。

撮影箇所: 全測点

工 事 名	
工 事 箇 所	
仮設配管布設工 仮設仕切弁及び筐設置	
施 工 者	

◎仮設仕切弁及び筐設置

仮設仕切弁及び筐の設置状況。
設置完了までを撮影する。

工 事 名	
工 事 箇 所	
仮設配管布設工 仮設消火栓及び筐設置	
施 工 者	

◎仮設消火栓及び筐設置

仮設消火栓及び筐の設置状況。
設置完了までを撮影する。

工 事 名	
工 事 箇 所	
仮設給水管切替工 No, ○○ ○○ ○○ 水栓番号 ○○○○○	
施 工 者	

◎仮設給水管切替工

量水器、または給水管に接続している
状況を撮影する。

撮影箇所:全切替箇所

工 事 名	
工 事 箇 所	
仮設配管連絡工 既設管切断工 分岐○	
施 工 者	

◎仮設配管連絡工 既設管切断工

既設管の切断状況を撮影する。

工 事 名	
工 事 箇 所	
仮設配管連絡工 水替工 分岐○	
施 工 者	

◎仮設配管連絡工
水替工

水中ポンプ稼働状況を撮影。

工 事 名	
工 事 箇 所	
仮設配管連絡工 配管状況 分岐○	
施 工 者	

◎仮設配管連絡工
配管状況

仮設配管を連絡した際の配管状況を撮影。

工 事 名	
工 事 箇 所	
不断水連絡工 DIP φ 300mm × φ 200mm 既設管清掃状況 立会者: 八咫水道企業団 ○○ 氏	
施 工 者	

【不断水連絡工】
◎既設管清掃状況

管の清掃状況を撮影。
同時に腐食状況を確認すること。

工 事 名	
工 事 箇 所	
不断水連絡工 DIP φ 300mm × φ 200mm 割T字管設置状況 トルク確認	
立会者: 八匠水道企業団 ○○ 氏	
施 工 者	

◎割T字管設置状況
トルク確認

管種・口径によって適正なトルクをかける。

工 事 名	
工 事 箇 所	
不断水連絡工 DIP φ 300mm × φ 200mm 水圧試験 0.75Mpa 5分間	
立会者: 八匠水道企業団 ○○ 氏	
施 工 者	

◎割T字管設置状況
水圧試験

0.75Mpaで5分間以上保持している状況を撮影。

5分間経過時の写真も必ず撮影する。

工 事 名	
工 事 箇 所	
不断水連絡工 DIP φ 300mm × φ 200mm 穿孔状況	
立会者: 八匠水道企業団 ○○ 氏	
施 工 者	

◎穿孔状況

割T字管を穿孔している状況を撮影。

併せて排水の確認状況も撮影する。

工 事 名	
工 事 箇 所	
不断水連絡工 DIP φ 300mm × φ 200mm 穿孔片確認	
立会者: 八匠水道企業団 ○○ 氏	
施 工 者	

◎穿孔片確認

穿孔片を撮影。

工 事 名	
工 事 箇 所	
不断水連絡工 DIP φ 300mm × φ 200mm ポリエチレンスリーブ被覆工	
立会者: 八匠水道企業団 ○○ 氏	
施 工 者	

◎ポリエチレンスリーブ被覆工

被覆状況を撮影。

工 事 名	
工 事 箇 所	
不断水連絡工 DIP φ 300mm × φ 200mm 割T字管設置完了	
立会者: 八匠水道企業団 ○○ 氏	
施 工 者	

◎割T字管設置完了

全景が写るよう撮影。

工 事 名	
工 事 箇 所	
不断水止水栓設置工 DIP φ 300mm 既設管清掃状況	
立会者: 八匠水道企業団 ○○ 氏	
施 工 者	

【不断水止水栓設置工】

◎既設管清掃状況

管の清掃状況を撮影。
同時に腐食状況を確認すること。

工 事 名	
工 事 箇 所	
不断水止水栓設置工 DIP φ 300mm 割T字管設置状況 トルク確認	
立会者: 八匠水道企業団 ○○ 氏	
施 工 者	

◎割T字管設置状況

トルク確認

管種・口径によって適正なトルクをかける。

工 事 名	
工 事 箇 所	
不断水止水栓設置工 DIP φ 300mm 水圧試験 0.75Mpa 5分間	
立会者: 八匠水道企業団 ○○ 氏	
施 工 者	

◎水圧試験

0.75Mpaで5分間以上保持している状況を撮影。

5分間経過時の写真も必ず撮影する。

工 事 名	
工 事 箇 所	
不断水止水栓設置工 DIP φ 300mm 穿孔状況	
立会者: 八咫水道企業団 ○○ 氏	
施 工 者	

◎穿孔状況

割T字管を穿孔している状況を撮影。

併せて排水の確認状況も撮影する。

工 事 名	
工 事 箇 所	
不断水止水栓設置工 DIP φ 300mm 穿孔片確認	
立会者: 八咫水道企業団 ○○ 氏	
施 工 者	

◎穿孔片確認

穿孔片を撮影。

工 事 名	
工 事 箇 所	
不断水止水栓設置工 DIP φ 300mm 弁体設置状況	
立会者: 八咫水道企業団 ○○ 氏	
施 工 者	

◎弁体設置状況

弁体を挿入している状況を撮影。

工 事 名	
工 事 箇 所	
不断水止水栓設置工 DIP φ 300mm ポリエチレンスリーブ被覆工	
立会者: 八匠水道企業団 ○○ 氏	
施 工 者	

◎ポリエチレンスリーブ被覆工

被覆状況を撮影。

工 事 名	
工 事 箇 所	
不断水止水栓設置工 DIP φ 300mm 不断水止水栓設置完了	
立会者: 八匠水道企業団 ○○ 氏	
施 工 者	

◎不断水止水栓設置完了

全景が写るよう撮影。

工 事 名	
工 事 箇 所	
給水管切替工 掘削状況	
No. ○○ ○○ ○○ 水栓番号 ○○○○○○	
施 工 者	

【給水管切替工】

◎掘削状況

写真管理は本管上と同様に撮影する。
横断箇所の場合は片側ずつ撮影。

撮影箇所: 全切替箇所

工 事 名	
工 事 箇 所	
給水管切替工 既設給水管撤去工	
No. ○○ ○○ ○○ 水栓番号 ○○○○○○	
施 工 者	

◎既設給水管撤去工

掘削により撤去している状況を撮影。

撮影箇所:全切替箇所

工 事 名	
工 事 箇 所	
給水管切替工 DIP φ 300mm × φ 25mm サドル分水栓取付状況	
No. ○○ ○○ ○○ 水栓番号 ○○○○○○	
施 工 者	

◎サドル分水栓取付状況

取付けた状態を撮影。

撮影箇所:全切替箇所

工 事 名	
工 事 箇 所	
給水管切替工 DIP φ 300mm × φ 25mm 水圧試験 0.75Mpa 5分間	
No. ○○ ○○ ○○ 水栓番号 ○○○○○○	
施 工 者	

◎水圧試験

0.75Mpaで5分間以上保持している状況を撮影。

5分間経過時の写真も必ず撮影する。

撮影箇所:全切替箇所

工 事 名	
工 事 箇 所	
給水管切替工 DIP φ 300mm × φ 25mm 穿孔状況	
No. ○○ ○○ ○○ 水栓番号 ○○○○○○	
施 工 者	

◎穿孔状況

割T字管を穿孔している状況を撮影。

併せて排水の確認状況も撮影する。

撮影箇所:全切替箇所

工 事 名	
工 事 箇 所	
給水管切替工 DIP φ 300mm × φ 25mm 穿孔片確認	
No. ○○ ○○ ○○ 水栓番号 ○○○○○○	
施 工 者	

◎穿孔片確認

穿孔片を撮影。

撮影箇所:全切替箇所

工 事 名	
工 事 箇 所	
給水管切替工 DIP φ 300mm × φ 25mm コア取付け状況	
No. ○○ ○○ ○○ 水栓番号 ○○○○○○	
施 工 者	

◎コア取付け状況

- 1.取付け前の挿入機
- 2.取付状況
- 3.取付完了後の挿入機
の3パターンを撮影。

撮影箇所:全切替箇所

工 事 名	
工 事 箇 所	
給水管切替工 量水器口径 φ13mm 丙止水栓 φ20mm × φ13mm サドル分水栓 φ300mm × 25mm PP分止水栓用ユニオン φ25mm × φ20mm PPソケット φ20mm 2.0 3.0 DIP φ300mm (GX) No. ○○ ○○ ○○ 水栓番号 ○○○○○○	
施 工 者	

◎給水管切替図

給水管の切替状況を黒板に立面図で描き
 布設状況を撮影する。

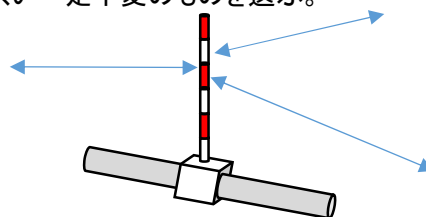
撮影箇所:全切替箇所

工 事 名	
工 事 箇 所	
給水管切替工 オフセット図 2.10 5.00 8.00 No. ○○ ○○ ○○ 水栓番号 ○○○○○○	
施 工 者	

◎オフセット図

オフセット計測状況と黒板に記入したオフ
 セット図を撮影。

測点は3点以上とし、境界杭、消火栓、電
 柱、集水樹など、天災地変等に左右されに
 くい一定不変のものを選ぶ。



撮影箇所:全切替箇所

工 事 名	
工 事 箇 所	
給水管切替工 埋設深測定 No. ○○ ○○ ○○ 水栓番号 ○○○○○○	
施 工 者	

◎埋設深測定

既定の深さに埋設されていることを確認し
 撮影する。

埋戻工についても本管上と同様に撮影す
 る。

撮影箇所:全切替箇所

工 事 名	
工 事 箇 所	
産業廃棄物処理 既設堀上管及び残管 仮置き場	
施 工 者	

【産業廃棄物処理】
◎既設堀上管及び残管

既設管及び残管が仮置き場に集積された状況を撮影。

撮影箇所:全切替箇所

工 事 名	
工 事 箇 所	
産業廃棄物処理 スクラップ積込及び運搬状況	
施 工 者	

◎スクラップ積込及び運搬状況

既設堀上管及び残管の積込状況及び運搬している状況。

追跡調査を行う際、搬出経路がわかりやすいよう、目立つ交差点等で撮影する。

また撮影の際は運搬車の後ろを追跡する。

工 事 名	
工 事 箇 所	
産業廃棄物処理 路盤廃材積込及び運搬状況 As廃材積込及び運搬状況	
施 工 者	

◎路盤廃材積込及び運搬状況
As廃材積込及び運搬状況

産業廃棄物(路盤材・As廃材)の積込状況を撮影。

また、処分場までの追跡調査と処分場での下ろし状況を撮影する。

工 事 名	
工 事 箇 所	
産業廃棄物処理 発生土積込及び運搬状況	
施 工 者	

◎発生土積込及び運搬状況

産業廃棄物（発生土）の積込状況を撮影。

また、処分場までの追跡調査と処分場での下ろし状況を撮影する。